

共同募金運動70年記念 第68回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 大口町優秀作品



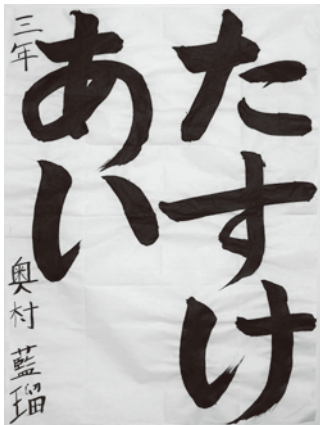
大口北小学校3年
渡邊 結月



大口西小学校5年
稲波 茜音



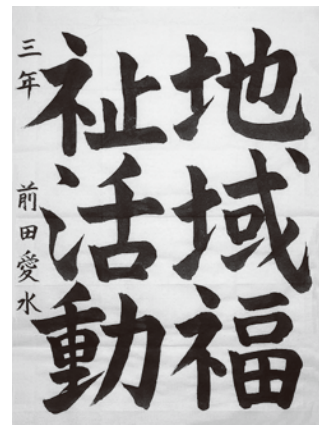
大口中学校1年
曾我 野々花



大口北小学校3年
奥村 藍瑠



大口北小学校6年
藤田 実玖



大口中学校3年
前田 愛水

応募総数 ポスター419点 書道259点 たくさんのご応募ありがとうございました。町内小中学校の推薦作品40点の中から、大口町共同募金委員会の第一次審査により、上の6点を入選作品として、愛知県共同募金会へ推薦しました。

CONTENTS

- ② ★赤い羽根共同募金
- ④ ★震災時の被災地後方支援
- ⑤ ★震災の伝承と防災教育
- ⑥ ★体験する福祉
- ⑧ ★ボランティア情報局
- ⑩ ★大口子育て情報ぎゅっと
- ⑪ ★介護豆知識
- ⑫ ★平成27年度 社協事業報告
- ⑭ ★福祉映画会『くちびるに歌を』
★大口中学校『語り部の会』
- ⑮ ★善意だより ★災害義援金のご報告
★心配ごと相談所開設日程
★ひとり親家庭日帰り旅行
★ボランティアフェスティバル
- ⑯ ★家具固定ボランティア養成講座
★介護者のつどい

社会福祉法人

大口町社会福祉協議会

事務局

月~金(土日祝・年末年始休) 8:30~17:15
電話 (0587)94-0060 FAX(0587)94-0059
〒480-0126 大口町伝右一丁目35番地
大口町健康文化センター(ほほえみプラザ)2階

ホームページ

<http://www.oguchi-shakyo.or.jp>

Eメール

chiikifukushi@oguchi-shakyo.or.jp



どう使うの？ 赤い羽根共同募金

じぶんの町を良くするしくみ。

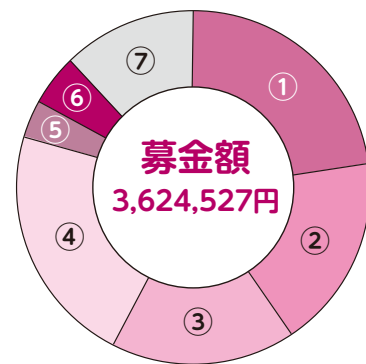
詳しい情報公開は

地 域福祉のために **高** 齢者の方のために **障** がいのある方のために **子** どもたちのために



赤い羽根共同募金の約88%は、大口町で役立てられています

平成27年度の大口町の募金額約362万円のうち約88%は大口町社会福祉協議会が配分を受け、①～⑥のつかいみちに役立てられています。



目的	配分金額	構成比率	主な事業
① 地域福祉推進のために	828,527円	22.9%	ボランティア活動支援、ふれあいサロンなど
② 高齢者のために	650,000円	17.9%	おせち料理配布、敬老お祝品の贈呈など
③ 障がいのある方のために	600,000円	16.6%	障がい者スポーツ大会、日帰り旅行など
④ 子どもたちのために	810,000円	22.3%	赤ちゃん絵本プレゼント、福祉実践教室など
⑤ 歳末たすけあいに	120,000円	3.3%	貸出用車いす等の備品整備など
⑥ 共同募金運動推進のために	178,000円	4.9%	共同募金運動の広報・啓発活動の資材など
⑦ 全地域の福祉推進のために	438,000円	12.1%	社会福祉施設の改修費、災害等準備金など
合計	3,624,527円	100%	

平成28年度募金目標額は370万円 (赤い羽根共同募金355万円 歳末たすけあい募金15万円)

社会福祉協議会をはじめ、募金の配分を受けようとする法人や団体は、あらかじめ寄付者の方々に納得いただけるようなつかいみちとなる「配分計画」を立て、都道府県の配分委員会による審査を経て、配分先が決定します。共同募金の寄付金は、無計画に集めて使われているのではなく、配分計画の金額を「目標額」として募金活動が行われるため、「計画募金」と呼ばれています。

災害等準備金って何？

全国の都道府県共同募金会では、災害に備えて赤い羽根共同募金の3%を積み立て、災害発生時に被災地の災害ボランティアセンターの運営や、社会福祉施設の復旧修理などに助成を行う「災害等準備金」制度を設けています。2011(平成23)年の東日本大震災では、全国の都道府県共同募金会から被災地へ総額8億8千万円の助成を行っています。また、平成28年熊本地震では、熊本県共同募金会に総額2億6千万円の助成を行っています。

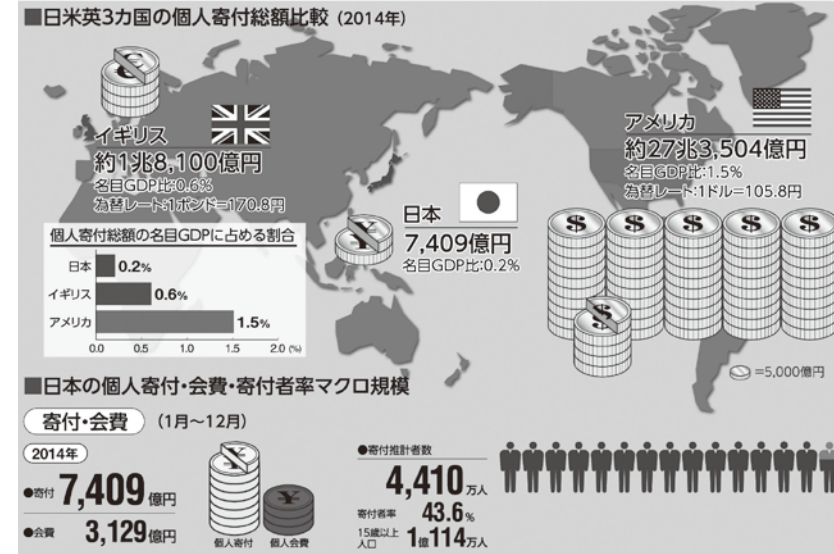
毎年、共同募金運動に多くの町民の皆様のご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。
今年度も、区長さんを通じて各家庭に寄付をお願いする「戸別募金」、企業や法人に寄付をお願いする「職域募金」「法人募金」、スーパー店頭での「街頭募金」などにより募金活動を実施いたします。
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

大口町共同募金委員会 会長 水野 多三男
大口町共同募金委員会 事務局
大口町伝右一丁目35番地(大口町社会福祉協議会内)
電話:94-0060 FAX:94-0059

赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 学校推薦作品40点の展示予定

日程	場所
9月28日(水)～10月11日(火)	健康文化センター 1階 町民ギャラリー
10月13日(木)～10月26日(水)	アピタ大口店2階
11月5日(土)・6日(日)	健康文化センター 2階 社協事務所前

日本の寄付市場の推移



(左図)日本ファンドレイジング協会「寄付白書2015」より抜粋引用

赤い羽根共同募金が、10月から全国でいっせいに始まります。寄付文化を考えたが、あなたの寄付を決めてはいかがでしょうか。

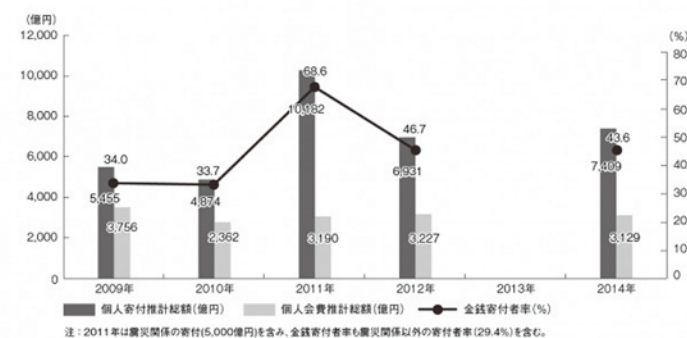
日本の寄付文化は成長途上

2011年(平成23年)、東日本大震災が発生したこの年、5000億円以上の震災関連の寄付が集まり、個人寄付の総額は、国内で推計1兆円を超えました。その前年は4800億円程度でしたから、実に2倍以上の寄付が集まったこととなります。

この年、日本人の4人に3人が何らかの寄付をしたと言われており、2011年は「寄付元年」と呼ばれています。震災があった年は飛躍的に寄付が伸びていますが、震災後もそれ以前に比べると増えており、平成26年は推計7409億円に達しています。

しかし、イギリスの財団の調査(※1)によると、2015年の寄付活動の世界ランキングで、145カ国中、アメリカとミャンマーが1位、日本は102位。日本は諸外国に比べ、まだまだこれからの現状です。

図1-5 個人寄付総額・会費総額・寄付者率の推移



注：2011年は震災関係の寄付(5,000億円)を含む。全額寄付者率(29.4%)を含む。

近年、ふるさと納税やクレジットカード決済による寄付、寄付つき商品、インターネットのワンクリック寄付など、さまざまな方法の寄付が登場し、寄付した人への税制上の優遇(寄付金控除)も拡大されました。

個人が寄付をしやすいう環境が整ってきていることは、日本の寄付文化が成長している証拠でもあると言われています。

社会に役立つ寄付がどうか見極めて

平成28年6月、埼玉県の建設会社社長が子供の未来応援基金に4億円を寄付したことが話題となりました。税金だけでは足りない子どもの貧困対策に使うと考えると、寄付先を選ぶことの重要性がますます高まっています。

今、寄付がどのように社会で役立てられるか、支援が必要な人にきちんと届いているか、寄付先が信頼できる団体か、ということまで考えて寄付を決める人が増えています。

日本人が寄付先の団体を選ぶ際に最も重視するのは、「寄付の使い道が明確で、有効に使ってもらえること」や「活動の趣旨や目的に賛同できること」(※2)。

赤い羽根共同募金は、日本赤十字社と並んで、日本人が選ぶ寄付先の1位となっています(※3)。団体の情報や寄付金額、つかいみちに至るまで広く情報公開されており、70年の歴史をもつ公共性の高い募金活動です。

大口町のまちをよくするための事業や施設への支援、災害支援に役立てられる赤い羽根共同募金に、あなたは賛同いただけますか。

(※1)チャリティエイド財団「世界寄付指数」(※2)日本ファンドレイジング協会「寄付白書2015」(※3)総務省「市民の社会貢献に関する実態調査」

赤い羽根共同募金 寄付文化を考える



岩手県遠野市長が語る防災講演会

震災時の被災地後方支援



平成28年7月16日、健康文化センター4階ほえみホールで、大口町防炎啓発事業として防災講演会を開催し、200名が参加しました。

講師は、被災地後方支援の最先端で活躍する本田市長。遠野市社協と大口町社協の「災害時相互応援協定」締結時の立会人となつていただいたご縁から、今回の講演会が実現しました。

官民一体の後方支援活動と「水平連携」

震災時は、自治体の活動だけでなく、地域住民や民間団体の活動が本場に大事です。

震災発生当初、地域住民と市、社協などの民間団体が一体となって炊き出し活動を行い、おにぎり14万個を避難者や救援部隊に提供しました。

また、避難所は救援物資を置いておくところがないため、遠野市へ全国から物資が大量に送られてきました。中には不要な物もあり、物資の徹底した仕分けと搬送の仕組みが必要となりました。さらに日が経つにつれて、避難者から「爪切りが欲しい」など細かなニーズが出てくると、おにぎりを送つてよしでは済みません。丁寧できめ細かな対応には、地域住民やボランティア、社協やNPOなどの民間団体の力がなくてはなりません。

そして、遠野市が後方支援活動を行うことができたのは、全国の友好都市をはじめとする「まちどうしの連携」（自治体の水平連携）と民間の支えがあったからこそなんです。

国→県→市町村という垂直の指揮命令系統は、大規模災害時には情報伝達が遅いなど、非効率な場合があります。

住民生活に密着した人物情報を把握しているのは、市町村です。市町村が現場の判断力と民間の支えを生かし、互いに連携してどんな支援策を打ち出していくことが、迅速で効率的な支援を可能にします。（※平成28年熊本地震では、遠野市を窓口と水平連携した市町村が、効率的な支援を行い話題となりました。）

震災時、近所の人を助けに戻ったおじいさんが、津波の犠牲となりました。おばあさんは、「おじいさん、ごめんなさい。立派でした。」と泣きました。

私は、もうそんな風に誰も泣かせたくないんです。人の命をつなぎ、誰かをあたりまえに助けるために、全国のまちと仲間が横につながることが必要です。

よそのまちが被災したら、
助けに行くのはあたりまえ。
横につながれ！
全国のまち、全国の仲間。

講師プロフィール：本田 敏秋(ほんだ としあき)氏
昭和22年生まれ。遠野市出身。神奈川大学法学部卒。岩手県職員を経て2002年(平成14年)の旧遠野市長選で初当選。現在通算4期目。



子どもたちが命をつなぎ、人と助け合い生きのびるために 震災の伝承と防災教育

東日本大震災の津波を知らない子どもたち

7月10日、大口西小学校体育館で、災害救援ボランティア(安藤巖代表)を講師として、6年生の防災教室を行いました。

東日本大震災当時の2011年、今の6年生は1年生。覚えているかどうか：防災教室の最初に、津波を記録したDVDを視聴することにしました。海からさすまじいうねりが押し寄せ、次々と流されていく家や車：津波が何もかも根こそぎ破壊しがレキの山と化した土地。子どもたちは、息を飲み食いするように映像をみつめます。

講師が、「今までに、津波の映像を見たことがある人はいますか？」とたずねると、手を挙げた子どもはゼロ。

地震クイズでは、30年以内に、南海トラフ巨大地震が起きる確率が70%、大口町の震度は6弱と聞いて、多くの子どもたちから驚きの声が上がりました。

災害時に生きのびる子どもの力引き出せ

防災教室の講義編では、釜石市内の小・中学生が震災後すぐに自分たちで考え避難し、命をつなぐことができた「釜石の奇跡」、熊本地震の避難所で子どもたちが自分から炊き出しを配ったり、掃除をしたりするボランティア活動を紹介。災害時に子どもは無力ではなく、自分の身を守り、人と協力してできることがたくさんあるということを伝えました。

そして、防災教室の実践編です。救助に必要なロープの結び方、ケガをした時の応急処置に使える三角巾の結び方、ガラスなどが落ちてくる避難所です歩くときに便利な新聞紙スリッパの作り方を順番に体験しました。

防災教室を体験した6年生の感想

- ・今日、はじめて津波の映像を見て、とても怖いと思いました。
- ・地震はこないと思っていました。地震が起こる確率を知ってびっくりです。
- ・大口町にはこれまで何度大きな地震がきたの？津波はどこまでくるの？まだまだ知りたいので教えてください。
- ・三角巾やロープの結び方を自分でできるようになるまでしっかり教えてくださいました。家でも防災に役立てたいです。
- ・防災教室を体験して、災害時に、自分にもできることがあるとわかりました。地震が起きても落ち着いて行動して、お年寄りや小さな子の役に立ちたいです。
- ・地震が起きてからでは遅いので、今から持ち物をまとめたり、家具を固定したりして準備していきたいです。
- ・自分の命や他の人の命を守るために、今日教わったことを家族みんなに教えたいと思います。

子どもたちに震災を伝承し、災害時に自分で自分の身を守る力を引き出すのは、おとなたちの責務。

社会福祉協議会が行う防災教育は、防災に強いまちづくりを担う子どもたちの力を育みます。

福祉施設見学バスツアーで施設をみてきたよ!

NPO法人 MODSグリーンファーム

所在地:大口町ニツ屋1-16



MODSは、名古屋発の施設。15名ほどの障がいのある人が、地域住民のスタッフさんと一緒に、いきいきと働いています。きれいな水で立派に育った小松菜は、地元スーパーで販売され、給食センターの給食にも使われているそうです。管理者の酒井さんが、小松菜の水耕栽培をわかりやすく紹介してくださいました。

小松菜の収穫も体験したよ!



老人保健施設さくら荘

所在地:大口町新宮1-96



耳より情報

老人保健施設とは、退院してもまだ介護やリハビリテーションを必要とする方のための、一時的なつなぎの施設。「利用は原則3か月以内とありますが、実際はその方の事情により個別に対応しています。さくら荘は、管理が難しい鼻の経管栄養の方も受け入れており、24時間体制のさくら総合病院と連携して対応できるのが強みです。」と事務長の安田さん。参加者からの質問にも丁寧に答えてくださいました。

軽費老人ホーム大口一期一会荘

所在地:大口町大屋敷三丁目207番地



一期一会荘は、身の回りのことはできるけれど、家庭の事情などで自宅で生活することができない60歳以上の人のための施設。「アパート感覚で自由に過ごせます。高齢で少し介助が必要な方もいれば、まだまだお元気で外へ働きに行く方もいますよ。」と荘長の萩岡さん。この日の昼食は、えびフライカレーとサラダ、漬物、デザート。毎日、管理栄養士さんの作った献立を厨房で調理して、おいしい食事を提供しています。

耳より情報

大口社協デイサービスセンター

所在地:大口町伝右一丁目47番地



社協デイサービスでは、家庭的な雰囲気大切にしながら、高齢の方が楽しんで参加できるレクリエーションを工夫しています。今回は、皆でチームになって、手作り糸巻ゲームに挑戦。ひとりひとり出番がある白熱したトーナメント戦に、子どもも大人も一緒に盛り上がりました。

ゲームの途中で間違えちゃって大爆笑!



施設見学バスツアー 大口社協デイサービスセンター・大口町生きがい活動支援センターの前で

子どもから大人までの福祉教育 体験する福祉

一度は見たい! 施設見学バスツアー

8月3日、「家族福祉教室」福祉施設見学バスツアーを開催し、参加者24名が町バスに乗って町内をぐるぐるめぐり、13の施設を見学しました。身近な地域の施設で、さまざまな人の暮らしを知り、ともに生きる社会や福祉にあなたも関心を寄せてもらうためのツアーは、今年で3回目。毎年、少しずつ新たな施設を追加し、ツアー内容を充実させてきています。今年度は、初めて障がい者施設のモツズグリーンファームの農場を見学。また、ここ数年で新しくできた高齢者施設や児童施設も紹介しました。見学先の施設では、職員さんから丁寧に説明をいただき、バス車内では社協のケアマネジャーから最新の介護情報をお知らせ。給食やレクリエーションも楽しみました。参加者からは、「いろいろな情報を知ることができて、とても参考になった」「皆で楽しく見学できてよかった」との感想をいただきました。地域の施設で見る・聞く・味わうことも「過ごすこと」で「体験する福祉」。社協は、子どもから大人まで幅広い世代に向けた福祉教育に取り組んでいます。

小中学生の定番 福祉教室・福祉体験

6月から8月にかけて、福祉に関する実践教室や体験活動が町内各小中学校で行われ、社協が支援しました。南小学校では、手話・点字・車いす・盲導犬の「福祉実践教室」に、3年生から6年生の211名の児童が参加。西小学校では、手話・点字・防災の教室に、6年生87名が参加。大口中学校では、知的障がい理解の教室に、1年生の223名が参加。ボランティア委員会(JVC)の87名は「夏休み福祉体験」に参加し、施設でボランティア活動を体験しました。誰もがともに生きる地域社会の担い手となる子どもたち。その初めの一歩として、「体験する福祉」は学校でも大切にされています。



デイサービスで活動するJVCの生徒



大口南小学校3年生 手話教室



大口南小学校4年生 点字教室



大口南小学校5年生 車いす教室



大口南小学校6年生 盲導犬教室



大口西小学校6年生 手話教室

「夏休み家族ふくし教室しせつ見学楽しかったよ」大口北小3年いなぎ花音

夏休み家族ふくし教室しせつ見学に行きました。しょうがいのある人たちが、こまんななどのやさいをそだてていました。どのようにつくってつえたり、しゅうかくしたりしているかを聞きました。どのようにつくってつえっているのかとつと、土をつかわず水とスポンジをつくっているそうです。しょうがいがある人たちが、しゅうちゅうしてせいといつばいがんばっていました。夏は、ビールハウスの中があついで、30分ずつつうたいして、水ぶんほぎゅうをするそうです。みんなえがおではたらいていました。

見学しているいろいろなことがわかりました。しょうがいがある人の中で「ほんすごいとおもったことは、ちゃんとあいさつをしていたことです。」「おはよう。」「言って、話せない人は、あたまをさげてわらっていました。」「あいさつを見て、しょうがいのある人たちの気もちがわかりました。つたわったときは、とても、気分がよかったです。」「へんきょうになったので、つきもさんかしていきいます。」

施設で働いている人たちの様子をよくみてきましたね。花音さんのやさしい気持ちが伝わる作文です。ありがとうを言いました★



福祉体験作文コンクール 学校代表作品

高齢者疑似体験 うさぎとかめ

奇数月第3水曜日、午前9時30分から11時まで、健康文化センターボランティア室にて活動

8月25日(木)、南児童センターにて、小学1年生から5年生までの44人と中学生ボランティア2人が参加しておこなわれました。ゴーグル、耳栓、手足におもりをつけて、見づらさ、聞きづらさ、動きづらさの体験をしました。耳栓をとった瞬間「ぼくはこんなに聞こえてたんだ」と言う男の子。体験終了後「うちのおじいちゃんも本当はつらいのに、がまんしてるのかなあ」と言う女の子。参加した子それぞれが、お年寄りの気持を感じる体験をしました。

めっちゃ真剣に見ないと、かみしばいの絵の色がわからないよ



えっ!まだ足首につけるの?



やさしく見守るボランティアさん



手首におもりがついてるからむずかしいなあ

先生も両はしの見えない体験にびっくり



お年寄りになると、横が見づらくなるから、真ん中の先生から両端のぼくたちは見えないんだって

手袋してるから、うまくボタンできないね。手伝ってあげるね。あ、でも、私も手袋だった



要約筆記 スマイル

毎月第2月曜日午前10時から12時まで、健康文化センターボランティア室にて活動

8月29日(月)、北児童センターにて、小学3年生から5年生までの39人が参加しておこなわれました。昨年の出前講座の反省から、さらにバージョンアップした内容で子どもたちに、耳の聞こえの悪い人に言葉を伝える方法を教えてくれました。OHPを使い、しりとりを絵で表したり、背中に書いた文字を読みとったり、筒を使い小さな声で伝えるなど、いろいろな伝え方をゲーム形式で体験しました。「聞こえないなんてこと考えたことなかった…」「きつね、って背中に書いたのに、きりん、って伝わったよ。背中で読み取って難しいんだね」など、真剣な声を聞くことができました。

絵でつないでいくしりとりだよ。「メガネ」の次は「ネコ」をかくよ



さっき間違えて伝えていたから、心配だよ

ボランティアさんたちほめ上手だなあ



寝てるわけじゃないよ。目をとじて集中して、背中に書いてもらっている字をあてるんだ



私たちサングラス、似合うかな

編集後記 取材・作成／編集ボランティア OZ

最近、ぼくはちょっとお座りができるようになったんだ。でもツメを切るのは、なれないからきらいだよ。言葉は少し言えるよ。ご飯のことを「ごわん」って。予防接種のとき、お医者さんから「おとなしくて、かわいいねえ〜」と言われると、ママはちよっぴりうれしそう。じいちゃんは、ぼくが泣くとすぐとんでくるから大好き。でも、じいちゃんの言うことはきかないんだ。ママはめっちゃびびしいよ。だからママの言うことは、ちゃんと聞かなくちゃ。ママの口ぐせは「誰からも可愛がってもらえて、よそさまに迷惑をかけない日本犬になるのよ」だって。でもぼくは、まぎれもなく、可愛いミニチュアダックスフンドのわんちゃんなんだ。



この夏子どもたちにも伝えてたいこと

ボランティア出前講座

ボランティア情報局

夏休み中、3つのボランティアサークルによる出前講座が、大口町の各児童センターでおこなわれました。講座内容は、毎年バージョンアップされています。今の子どもたちに興味をもってもらえるよう、サークルのみなさんはとても努力されているはずなのに、どのサークルも、ボランティアさん自身が「楽しかった〜」「来年は、ここをもっと考えるわ」などと、参加した子どもたちに負けないくらい、元気で前向きでした。子どもたちに伝えたかったことは、きっと伝わったことでしょう。



音訳ボランティアたんぽぽ

健康文化センターボランティア室にて活動。絵本読み聞かせ活動は第1・第2水曜日

8月22日(月)、西児童センターにて、小学1年生から3年生までの33人と中学生ボランティア4人が参加しておこなわれました。最初に「広報や社協だよりなどを読んで録音し、目の不自由な方にお届けしています」と日頃のボランティア活動のお話を聞きました。声を届けるために、発声や早口言葉の練習をしているので一緒にやってみよう、ということで、参加した子どもたちは、必死で練習して発表しました。子どもたちからは「本を読むことがボランティアなら、できるかも」「早口言葉はおうちでも練習しよう!」などとやる気満々の声がきこえました。

はっきりした言葉で伝えるため、発声は大事なんです



「ブレストーク」録音したCDはこれで聞きます。音の大小や早さの調整ができます



発表前の読む練習は、ボランティアさんが優しく教えてくれたよ



マイクがあって、ちょっとこわかったけど、上手だねとほめてもらったよ



きゅーーおみゅおみゅ きゅーーおみゅおみゅ ひゅーーひゅみゅひゅみゅ 3回も言えよ



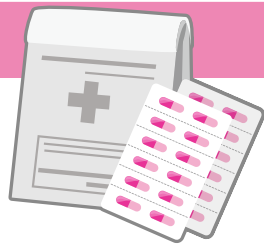
発声で「か」って、うのがあって鼻にかけて「んが」みたいに言うんだって。へえ〜





年齢を重ねると、飲まなければいけない『薬』が多くなるようですね。
薬を飲み忘れたり、飲みにくかったり、いつ飲む薬かわからなくなったりした事ありませんか？
今回は『薬』を安全に使う『まめ知識』です。

薬の正しい飲み方



- 薬は水か白湯で飲んでください。薬によってはお茶で飲むではいけない薬もあります。
- 薬はコップ1杯の水で飲むように作られているので、多めの水で服用します。
- 薬は嚙んではいけません。水と一緒に飲み込んでください。
- 飲み込みにくい時はゼリーやプリン、お粥を利用したり、最近は服薬ゼリーがあります。
- 上半身をまっすぐに起きた状態で服用するのが良いのですが、できない方は上半身を30度以上起こして飲ませ、暫くそのままの姿勢を保って逆流を予防してください。

薬の服用時間

- 食後** …… 食事のあと～食後30分ぐらいまでが目安。 **食間** …… 食事と食事の間。食事の約2時間前後が目安。
食前 …… 食事の30分ぐらい前 **寝る前** …… 寝る30分ぐらい前
食直前 …… 食事のすぐ前 **時間毎** …… 食事に関係なく一定の間隔で服用する
食直後 …… 食事のすぐ後 **頓服(屯用)** …… 症状が出た時に服用する。

薬を飲み忘れた時の対処法

- ★次の服用時間まで時間がある時はすぐに服用します。次の服用時間が近い時は1回飲むのを止めます。次に飲む時2回分まとめて飲むのは止めてください。
 - ★食後に飲む薬は食事をしなくても、服用時間になったらきちんと飲みましょう。但し、糖尿病の薬は食事をしていない状態では飲まないでください。
 - ★6時間置きなど服用時間が定められている薬は、飲み忘れ分を飲んだ後、次の服用時間は遅らせてください。
- ※以上は一般的な目安です。予め飲み忘れた時の対処法を確認しておきましょう。食事時間が不規則な場合も医師や薬剤師に確認してください。

薬の飲み忘れ防止の工夫

- ♥薬を飲む時間毎に分け、仕切りがある空き箱に整理しましょう。
- ♥1回に飲む薬の数が多い場合は、調剤薬局で一包装することができます。(有料)
- ♥市販の薬カレンダーを利用して一週間分の朝、昼、夕、寝る前などに小分けしましょう。



飲み忘れ防止の工夫【一包装】



【おくすりカレンダー】



大阪府薬剤師会「高齢者とくすり」より引用



【編集】特定非営利活動法人「まみーぽけっと」
 【HP】
<http://www.geocities.jp/mammypocket2003/index.html>

幼稚園・保育園を決める時期になりましたね。町内にある各園を紹介します。参考にしてください。

幼稚園名	大口幼稚園	ラ・モーナ幼稚園
所在地	大口町高橋2丁目124番地	大口町河北3丁目1番地
問い合わせ先	95-5505	95-2025
HPアドレス	http://oguchi-hp.sakura.ne.jp/	http://lamonakinder.sakura.ne.jp
特色	音楽・英語・絵画・体育(水泳)の各専門教師による指導。	週2度、ネイティブ講師による英語活動。パソコンに親しめる活動。
保育料	18,000円、給食費(含おやつ)280円/日	25,000円、給食費(含おやつ)4,500円/月
保育時間	10:00～14:30	9:30～15:00
早朝・延長保育	早朝8:00～10:00、延長16:00～18:00	早朝7:30～9:30、延長16:00～18:00
延長保育料	8:00～無料、16:00～18:00 300円/1回	7:30～無料、16:00～18:00 300円/1回
給食	配達給食、木曜日は弁当持参	配達給食、木曜日は弁当持参
園児数	296名(H28.9.1現在)	112名(H28.9.1現在)
送迎バス	あり(バス代2,500円/月)	なし
休み	小学校と同じ長期休暇有り。休暇中無料お預かり保育有り。土・日・祝の保育はありません。	

保育園名	大口町立南保育園	大口町立西保育園	大口町立北保育園	私立大口中保育園
所在地	御供所3-264	余野5-196	小口字金三西20	城屋敷1-335
問い合わせ先	95-2714	95-1700	95-3621	95-2862
園児数	146名(H28.9.1現在)	154名(H28.9.1現在)	125名(H28.9.1現在)	156名(H28.9.1現在)
支給認定	保護者からの申請を受け、保育の必要性により「支給認定」をしたうえで、入所決定をします。			
利用者負担額	所得に応じ、階層ごとに保育標準時間、保育短時間の利用者負担額を決めます。 *兄弟、第3子以降等減免あり			
保育時間	*保育標準時間(7:30～18:30) *保育短時間(8:30～16:30)*土曜保育は大口中保育園で集約して実施			
延長保育	早朝7:30～8:30、延長16:30～18:30(大口中保育園のみ19:00) *土曜保育の延長は17:30まで			
延長保育利用料	1か月契約者…30分あたり1,000円、 随時利用者…30分あたり1回250円、以降一律500円			
給食	園内での手作り給食、地域の方の生産した野菜を一部使用			
休日保育	西保育園で集約して実施(事前登録、申し込みが必要)、昼食・おやつ持参			
休み	日曜・祝日・12月29日～1月3日			
特色	年齢別の活動(知育・体力・造形等の活動)をおこなっています。 伝統芸能の和太鼓、けん玉、手作りパズルに取り組んでいます。 年間を通して、英語で遊ぼう・体操教室もおこなっています。			

福祉子ども課<健康文化センター1F> TEL 94-1222

平成27年度 社協事業報告(抜粋)

去る平成28年5月17日(火)に社会福祉協議会理事会、5月30日(月)に社会福祉協議会評議員会が開催され、平成27年度の事業報告と決算報告が承認されました。なお、平成27年度の事業報告、財産目録、資金収支計算書、貸借対照表は、本会公式ホームページで公開しております。窓口で閲覧希望の方は、本会までお申下下さい。

理事会・評議員会の開催

- 理事会
 - 第1回 平成27年5月18日開催
 - 第2回 5月25日開催
 - 第3回 6月19日開催
 - 第4回 10月20日開催
 - 第5回 平成28年3月15日開催
- 評議員会
 - 第1回 平成27年5月25日開催
 - 第2回 6月23日開催
 - 第3回 平成28年3月25日開催

社協会員募集

- 一般・賛助会員 4,885件 (加入率5.9%)
- 法人会員 77件
- 会費合計金額 3,082,950円

広報・啓発活動

- 「おおぐち協だより」を4月、7月、10月、1月の計4回発行
- ホームページを更新し、見やすい社協をこころがけ事業を公表、事業の利用及び参加・協力の働きかけを実施
- 大口市ふれあいまつりにおいて「ふくしわくわくランド」を開催

ボランティアセンター

- 夏休みボランティア出前講座の実施 (参加人数 合計102名)

場所	月日	内容
北児童センター	7月31日	高齢者疑似体験うさぎとかめ
西児童センター	8月21日	要約筆記スマイル大口市
南児童センター	8月27日	災害救援ボランティア

- ボランティア養成講座の実施
 - ①レクリエーションボランティア養成講座 (全3回、参加延人数 49名)

- ②手話ボランティア養成講座 (全12回、参加延人数 85名)
- ボランティア研修会の実施
大口市ボランティア連絡協議会と合同で、豆腐工房で健康と食に関する研修会を開催 平成27年9月4日(参加者数 31名)
- ボランティア保険加入及び事故時等の事務 ボランティア活動保険加入者数 団体 58団体(936名) 個人 9名 総加入者数 945名 (男性400名 女性545名) 事故件数 2件
- ボランティア派遣を調整
相談15件、派遣11件
うち、学校からの依頼によるボランティア派遣 1件(尾北看護専門の講義に高齢者疑似体験うさぎとかめを講師として派遣)
- 地域防災の一端(ボランティア対策部)を担う社協として、大規模災害時に備え関係団体等との情報共有と連携を強化

児童福祉

- 町内小中学校と協働で、福祉教室(福祉実践教室・総合学習)を実施し、福祉教育を推進 (参加児童・生徒数 延1,031名)
- 子育て支援サークルの活動支援
- おもちゃ病院「おおぐち」の支援
- 青少年等ボランティア福祉体験学習事業の実施協力 (大口中学校JVC 参加生徒数 延83名)
- 民生委員児童委員が行うドアノック事業の実施協力し、赤ちゃん訪問時にお祝い品をプレゼント (5ヶ月訪問 231名、1歳訪問 245名)
- 夏休み親子福祉教室(施設見学バスツアー)を開催(参加人数21名)

高齢者福祉

- 単身・高齢者世帯に対し大口町水彩画クラブ、民生委員の協力により、おせち料理配布事業を実施
平成27年12月30日 (配布数 124世帯)
- 「敬老の日」に80歳以上の在宅高齢者及び入所施設利用者へお祝い品の贈呈
平成27年9月18日 (配布数 在宅154名、施設152名)
- 介護者向け情報冊子「介護まめ知識」を対象世帯に配布
- 認知症の人やその家族の支援として、認知症カフェ「オレンジカフェ・大口」の運営を支援

- 大口町高齢者軽度生活援助事業(ホームヘルパー)、大口町生きがい活動支援通所事業(デイサービス)、大口町はつらつ健康体操事業(いきいき教室)を受託

障がい児者福祉

- 第31回大口町障がい者スポーツ大会の実施 平成27年6月14日 (参加者数 304名)
- 重度身体障がい者日帰り旅行の実施 平成27年10月27日 (参加者数 20名)
- 大口おもちゃ図書館さくらの活動支援
- 大口町障がい者等地域生活支援事業(移動支援事業)の受託
- 精神障がい者を対象とするサロン「フリースペースれんげそう」の運営支援

母子父子福祉

- ひとり親家庭日帰り旅行の実施 平成27年8月1日(参加数 18家族 43名)
- 母子家庭等に対する「就業相談日」を開催
- 母子寡婦福祉会の活動支援
- 小学校、中学校、高等学校等入学のひとり親家庭を対象にお祝い金を贈呈(19件)

ふれあいサロン

- サロン設立初年度の備品助成
- サロン開催実績回数(上限24回)に対し助成
- サロンに対する行事保険の加入
- サロン活動に必要な備品の貸出
- サロンのPRや広報等チラシを作成し活動を支援
- ふれあいサロン交流会を開催(参加人数 28名)

サロン名	参加延人数
フリースペースれんげそう	433名
傾聴サロン笑桜会	284名
子育てサロンまむまむ	1,131名
外坪ほっこり	511名
大屋敷新田地区いっぶく茶屋	542名
萩島地区茶々会	141名
サロンさつき	2,400名
元気会	413名
大屋敷にここ	272名
河北陽だまり	576名

福祉関係団体の育成・助成

- 大口町身体障害者福祉協会、心身障害児(者)親の会、更生保護女性会、母子寡婦福祉会、保護司会、遺族会、尾北地区聴覚障害者福祉協会、尾北精神障害者家族会、しらゆり会大口支部への助成

共同募金事業

- 共同募金運動を実施
・赤い羽根共同募金実績額 3,496,527円
・歳末たすけあい募金実績額 128,000円
- 共同募金配分金事業の推進と充実
- 募金機能付自動販売機を健康文化センター1階、軽費老人ホーム一期一会在1階に設置
- 災害復興義援金の募集窓口を設置
- 赤い羽根共同募金バトンリレーをヤマザキマザック株式会社で実施

貸付事業

- 生活福祉資金貸付制度の窓口業務(相談件数38件)
- 町くらし資金貸付・緊急一時支援等

相談事業

- 心配ごと相談所の開設(相談者数 延72名)
- 総合福祉相談の窓口常設(相談者数5名、支援回数延141件)

日常生活自立支援事業

- 福祉サービス利用に関する相談、日常的な金銭管理サービス、書類や通帳等の預かりサービス(相談者数5名、支援回数延436件)

貸出事業

- わたがし機、ポップコーン機、松葉杖、福祉車両、車いす等の貸出サービス(総貸出件数 200件)

在宅福祉サービス 3事業所の経営

- 大口社協居宅介護支援事業所
- 大口社協訪問介護事業所
- 大口社協デイサービスセンター

防災・災害事業

- 大口町防災啓発事業を受託
- 介護サービス事業所従業員対象の災害図上訓練(DIG)講習会を開催
- 防災講演会を開催
- 岩手県遠野市社会福祉協議会・大口町社会福祉協議会 合同災害支援訓練を遠野市で実施

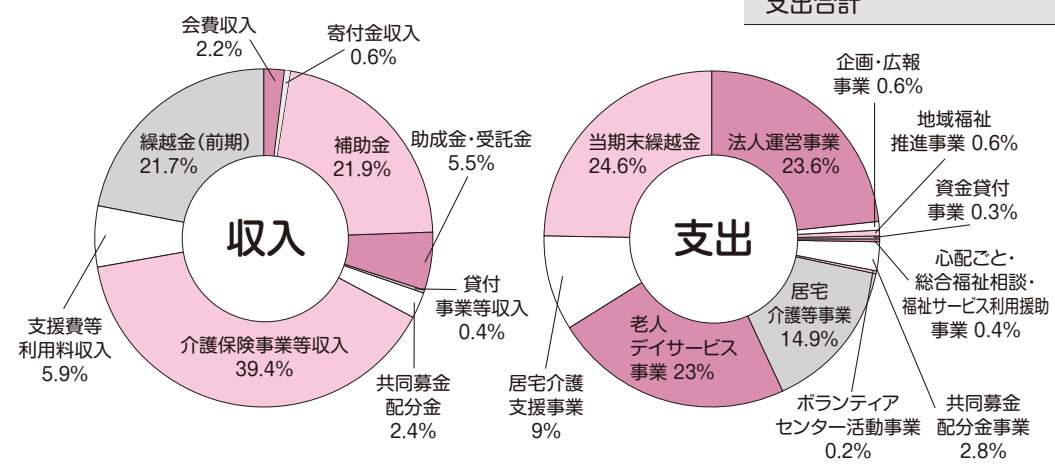
福祉関連事業

- 大口町表彰式典の開催
- 点字投票制度への協力
- 西尾張ブロックボランティアフェスティバルを幹事社協として開催(参加者数871名)

平成27年度 大口町社会福祉協議会決算報告

項目	金額(単位:円)
会費収入	3,082,950
寄付金収入	897,647
補助金	31,421,000
助成金・受託金	7,858,153
貸付事業等収入	561,489
共同募金配分金	3,478,581
介護保険事業等収入	56,453,408
支援費等利用料収入	8,479,368
繰越金(前期)	31,181,834
収入合計	143,414,430

項目	金額(単位:円)
法人運営事業	33,858,375
企画・広報事業	844,769
地域福祉推進事業	815,386
資金貸付事業	409,879
心配ごと・総合福祉相談・福祉サービス利用援助事業	527,004
共同募金配分金事業	4,009,156
ボランティアセンター活動事業	371,602
居宅介護等事業	21,304,377
老人デイサービス事業	33,056,972
居宅介護支援事業	12,878,397
当期末繰越金	35,338,513
支出合計	143,414,430



社協会員加入のお礼

本年7月からの会員募集について、一般会員・賛助会員・法人会員に多くの皆様のご加入いただき誠にありがとうございました。ご協力いただいた区長・地区役員の皆様に厚くお礼申し上げます。会費は、社協で実施する各種事業の財源として、大切に活用させていただきます。

善意だより

社会福祉に役立ててほしいと、大口町社会福祉協議会にあたたかい寄付・寄贈が寄せられました。厚くお礼申し上げますとともにご報告します。順不同(6月1日～8月31日取扱い分)

- ダンスサークル大口 吉川 弘雄 様 30,000円
- おおぐち農業ステーション「地恵の輪」様 5,930円
- 匿名希望 10,000円
- 匿名希望 カラオケ内蔵型マイク、テーブルクロス、DVD、カラオケセット、ボックスティッシュ10箱

災害義援金のご報告



大口町老人クラブ連合会様からの災害義援金30万円を大口町共同募金委員会がお預かりし、熊本県共同募金会へ送金しました。

- 平成28年熊本地震義援金
- 平成28年6月30日送金分 734,531円
- 平成28年7月15日送金分 300,000円
- 平成28年熊本地震義援金は、平成29年3月31日まで共同募金委員会窓口(健康文化センター2階社協事務所)で受け付けています。お問合せ先:共同募金委員会 94-0060

平成28年度 西尾張ブロック ボランティアフェスティバル

■日時 平成28年11月27日(日) 10:30～15:30

■場所 津島市文化会館 (津島市藤浪町3丁目89番地10)

■プログラム
午前:ボランティア・福祉ブース、サロンコーナー
午後:男声コーラスと手話コーラスのコーボ
講演会 シャンソン歌手 遠藤 伸子氏
感謝の「生涯500回のボランティアライブ」

■主催 西尾張ブロックボランティアフェスティバル実行委員会、14市町村社会福祉協議会

■問合せ 社会福祉協議会 電話 94-0060

平成28年10月～12月分 心配ごと相談所開設日程

●母子自立支援相談(原則第1水曜日)

経済問題、就労、進学、各種手続き等に関するひとり親家庭のための相談。女性の母子自立支援員が対応します。※予約優先

●女性相談(原則第1・3水曜日)

家庭、離婚、人間関係、介護、子育て、DV等に関する女性のための相談。女性相談員が対応します。※予約優先

内容	母子自立支援相談 女性相談 10:00～15:30	女性相談 10:00～15:30
10月	5日(水)	19日(水)
11月	2日(水)	16日(水)
12月	7日(水)	21日(水)

●高齢者・障がい者の弁護士相談(原則第4水曜日 ※一部変更あり)

ご高齢の方、障がいをお持ちの方やそのご家族が安心して暮らしていくために、弁護士が身近な心配ごととの相談にのります。

内容	高齢者・障がい者の 弁護士相談 13:30～16:30	※弁護士相談は 完全予約制です 相談時間はおおむね 30分間ですので、あ らかじめ相談内容をま とめてきてください。
10月	26日(水)	
11月	30日(水)(※)	
12月	21日(水)(※)	

(※)第4水曜日ではありませんのでご注意ください。

予約受付 社会福祉協議会 電話 94-0060

8/6 赤い羽根共同募金配分金事業 ひとり親家庭日帰り旅行



16家族39名の親子が参加し、鳥羽水族館と地産地消のランチバイキング、伊勢神宮・おかげ横丁の日帰り旅行を楽しみました。

日頃から忙しいひとり親家庭のお母さん。「とても楽しく子どもとの時間を過ごせました。次回もぜひ参加したいです。」「車がなくて、遠出はお金もかかるため、こういった旅行は本当にありがたいです。」との声が多数ありました。お子さんは皆、元気いっぱいにご過ごしました。



- ① 来場者で埋まる町民会館大ホール
- ② 主催者の心身障害児(者)親の会のスタッフのみなさんと社協職員
- ③ 車いすを利用する当事者の方と家族も来場
- ④ 親の会35年の歩みを紹介するパネル展示

7/3 大口町心身障害児(者)親の会・社会福祉協議会主催 福祉映画会『くちびるに歌を』

心身障害児(者)親の会(以下、親の会)設立35周年を記念し、親の会と社協が主催して、町民会館2階大ホールで無料の福祉映画会を開催しました。

当日は、一般の地域住民のほか、施設に通う障がいのある人とその家族、福祉関係者ら336名が参加。

障がいへの理解が進み、人と人とのつながりが広がっていくことを願って、『くちびるに歌を』を上映しました。

参加した人からは、「障がいのある人と家族の思いが伝わり、胸が熱くなった。」「このような映画会をもっと開催して欲しい。」と多数のご好評をいただきました。

映画会は、親の会の横井会長の挨拶で開会し、ロビーでは親の会の歩みのパネル展示も行い、障がいのある人たちが地域の中で安心して暮らせる社会にするための親の会と社協の活動をPRしました。

PICK UP 『くちびるに歌を』

主演:新垣結衣 木村文乃 桐谷健太他
原作:中田永一 監督:三木孝浩

九州・長崎県の五島列島の中学校に、美しいピアニストの臨時教員がやってくる。明るくふるまう15歳の生徒たちは、実は誰にも言えない悩みを抱え、みんながひとつになる合唱に救いを求めている。自閉症の兄がいるサトルは、両親亡き後に兄の面影を見るために、自分はこの世に生まれてきたと思っていた。

大切な人の裏切りや死など、それぞれが悩みと厳しい現実を受け入れ、仲間とともに歌い上げる合唱が胸を打つ。



- ① 中学生に向けて戦時中の体験を語る廣瀬氏
- ② 中学生と遺族会がそろって「語り部の会」に参加
- ③ 大口神社について紹介する歴史民俗資料館の西松氏

8/19 大口町遺族会が戦争の語り部を派遣 大口中学校「語り部の会」

遺族会は、大口町平和祈念式とあわせて実施される大口中学校平和学習会(中学2年生対象)に講師を派遣しており、社協が協力しています。

今年度は、「語り部の会」として、遺族会会員の廣瀬氏が語り部講師となり、戦時中の体験と遺族の思いを語り、遺族会会長の宮地氏が、歴史民俗資料館の資料をもとに兵士の思いを朗読し、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えました。

そして、戦没者を慰霊する大口神社と「平和の礎」の歴史と意味を中学生に知ってもらう企画として、歴史民俗資料館の西松氏が講義を行い、生徒たちは静かに耳を傾けていました。

PICK UP 「平和の礎」

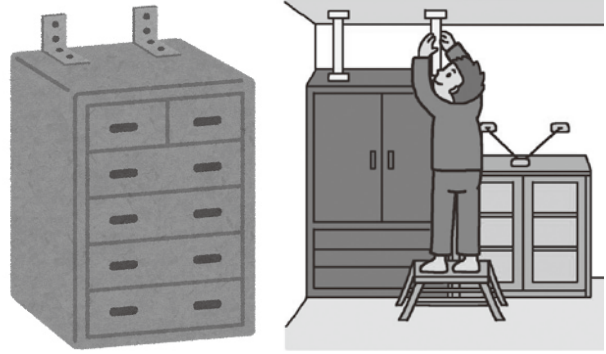
大口神社は、第二次世界大戦で犠牲となった大口町民の慰霊のため、昭和27年に現在の大口中学校グラウンドのある場所に建てられました。中学校新設にあたり、社殿等は犬山市羽黒の恩田社に移築され、308名の戦没者芳名の刻まれた「平和の礎」のモニュメントは、中学校敷地の東側に移設されています。



家具固定ボランティア養成講座 受講者募集

いつきてもおかしくない南海トラフ巨大地震に備え、家具固定の知識と技術を学び、ボランティア活動に生かしませんか？

- 日時 **平成28年11月9日(水)**
13:30~16:15
- 場所 大町役場 2階 第1会議室(座学)
大町役場 防災倉庫(実演・実習)
- 参加費 500円
- 対象者 町内に居住する方で、地域の防災力向上と家具固定器具取付を行うボランティア活動に協力いただける方(男女及び年齢制限はなし)
- 定員 20名
- 講師 一般法人 わがやネット
(代表理事 児玉 道子 氏)
平成18年全国防災まちづくりフォーラム最優秀賞、平成20年日本耐震グランプリ優秀賞受賞、平成23年日本福祉のまちづくり学会市民活動賞受賞など
- 申込み 10月11日(火)午前9時から社会福祉協議会窓口または電話、FAXで受付
社会福祉協議会 電話 94-0060
FAX 94-0059



●講座カリキュラム

日 程	場 所
13:30~14:30	座学 「大地震に備えて～家の中を見直してみよう～」
14:45~16:15	実演、実習、質疑応答 ・ガラスの飛散防止フィルム貼り ・ボードによる下地探し ・木枠によるビス打ち

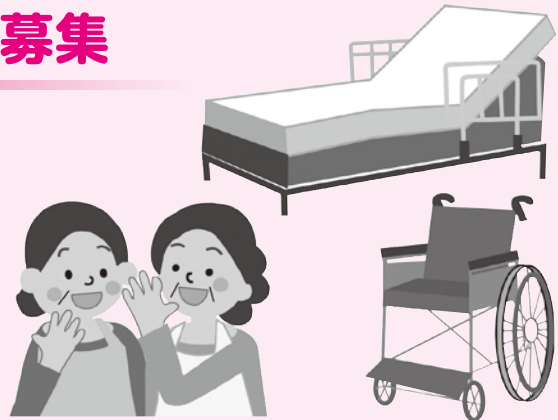
介護者のつどい 参加者募集

介護者同士で悩み事をお話したり、知りたいや聞きたいことを情報交換したり…
介護者の方がリフレッシュできる場として、ミニ講演会・茶話会を企画しました。お気軽にご参加ください。

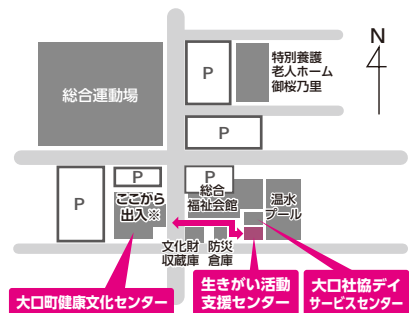
- 日時 **平成28年11月10日(木)**
13:30~15:30

- 場所 大町生きがい活動支援センター
(大町町伝右一丁目47番地)
- 参加費 200円(飲み物・ケーキ付き)
- 対象者 在宅介護をしている方
これからする予定の方
介護経験のある方など
- 内容 ミニ講演会と茶話会
- 講師 ながお在宅クリニック
院長 長尾 強志 氏

- 申込み 社会福祉協議会窓口または電話で受付
※会場の都合により24名で受付を終了させていただきます。



お問合せ先
大町町社会福祉協議会
電話 94-0060 FAX 94-0059
大町町伝右一丁目35番地
大町町健康文化センター2階



※駐車場は周辺Pをご利用ください。道路横断には十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。